

16:12 (そのとき、イエスは弟子たちに言われた) 言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。

16:13 しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。

16:14 その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。

16:15 父が持つておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは、『その方がわたしのものを受けて、あなたがたに告げる』と言ったのである。」

ヨハネによる福音 16 章 12 節から

1) 三位一体の教え

キリスト教を一口でいえばキリストを信仰する宗教です。キリストとはもちろんイエスのことです。じゃあイエスを信仰する宗教かということそれだけではない。キリスト教の信仰対象はただ一つの神です。

となると神とイエスの関係はどうなるのか。ややこしい問題がでてきます。父・子・聖霊の神という教理はこの問題に教会が4世紀から5世紀(今から1600年以上も昔)100年近くかけ

て開催した会議で与えられた答え、それが三位一体です。

この答えに賛成することでキリスト教として教会の一致、逆にいうと教会の分裂を回避しました。教会の分裂を避けるために教会が三位一体の神をあみだしたともいえます。

しかし、宗教改革以降、キリスト教会は分裂してしまっただけです。いまさら三位一体の教理を持ち出しても教会統一の教理にはならないでしょう。この教理、三位一体は違った角度から再度解釈する必要があるとおもいます。

2) 聖霊

三位一体、父と子は神とイエスをさします。聖霊ってなんでしょか。聖書では「聖霊」がでてくるのはとても早く、最初のページの二節目です。

創世記 1:1 初めに、神は天地を創造された。

1:2 地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。

この「神の霊」が新約聖書でいう聖霊です。

調べてみたら、旧約には聖霊ということばはありません。

霊ということばしかでてきません。なんでかな？と考えましたが答えは簡単でした。神はひとつ、唯一だからです。聖霊なる神という表現は旧約の時代には必要なかったのです。ユダヤ教は一神教ですので聖霊と神を区別する必要がありません。神は霊なり、このようにシンプルにっていればそれで事足りてい

ました。

ということは、聖霊はキリスト教独自の概念として新約聖書にでてくるわけです。だから旧約聖書には単純に「霊」といっていたものを新約聖書では別の呼び名「聖霊」と語ります。

宗教一般から言えば神が霊であるというのはあたりまえです。どんな霊を神とするのかで宗教はわかれます。キツネの霊を神として信仰すると稲荷信仰になります。霊ではなく仏を信仰すると仏教になります。八百万の神の霊を信仰すれば神道になるという具合です。

3) きょうの福音

「今、あなたがたには理解できない」イエスはこういい「その方」がくればわかるといいます。その方とは聖霊をさしています。

ところで、告げられた弟子たちはそれでわかる、納得できるのでしょうか。聖霊様は教え上手だからわかるようになるのかなあ、とでも納得するのでしょうか。

イエスは弟子たちに新約聖書の言語 = ギリシア語では話をしていません。当時のエルサレムの言葉、アラム語で話をしていま

す。ということは旧約聖書の霊ということばで話をしていた（ルーアツハ、息という意味もある、といいます）。文字にすると区別されますが、実際に語っている時に「霊」と「聖霊」の区別はイエスはしていなかったのではないか。また同じように弟子たちも霊と聖霊をしていなかっただろう。

弟子たちはユダヤ人ですから旧約聖書の霊を理解しています。一般的には霊がそそがれると神からの特別の力が与えられるという理解です。ヨハネ福音では復活のイエスが約束どおりに弟子たちに聖霊を吹きかけます。

彼らに息を吹きかけて言われた。聖霊を受けなさい。20:22

4) まとめ、聖霊理解のために

神・イエスからはなれて、つまり三位一体の神である聖霊から離れ、いったん自由なれば聖霊はわかります。聖霊とは神の霊（イエスの息）である。この理解がわかりやすい。

宗教を複雑にして得をするのは専門家だけです、ふつうの人、信者にはめいわくです。神はただ一人、これがいちばんわかり易い。

初期のキリスト教はいたずらに複雑にするつもりはなく、「神の姿」を明らかにするつもりで三位一体をあみだしたのでしょうが、さきほど述べたように教会分裂している現在では当初の目論見は失敗しています。

キリスト教はユダヤ教を母体とする新しい宗教ですので、どうしてもあたらしい神のイメージが必要になる。旧約の神はそのままでは裁きの神・怒る神・復習する神などなど、イメージが悪い。またユダヤ人にはよい神であればあるほどほかの民族、聖書で言う異邦人にはおっかない、迷惑な神になってしまいます。

三位一体は初期の教会の理解する神のかたちであると突き放し

てみるとぼやけていた輪郭がはっきりしてきます。

伝統として三位一体、父・子・聖霊の神を信仰するというスタイルを守り、つまり習慣として三一の神（こういう言い方もあります）を信仰する。ただ、理解のためには三位一体は神秘思想としてしりぞける、このやり方が現代的で未来につながる信仰だとわたしは考えています。

十字架の死、そして復活、聖霊降臨と続いてきたキリスト教の大切な記念主日もきょうの三位一体主日をもって終わります。

さいごに聖霊についての話を今日しました。理性、あたまで理解することは信仰にとって大事なことですが、古来から信仰のかなめである神について理性で理解することに挑んだ賢人たちは数多くいます。しかしいまだ達成していません。月並みな言い方ですが「ハラでわかる」これが信仰のコツなのでしょう。